

市民の皆様へ

～「奄美市総合防災ハザードマップ」の発刊にあたって～

近年、全国各地で豪雨や地震などによる大規模自然災害が頻発しております。

本市では、平成22年10月に発生した奄美豪雨災害において、2名の尊い生命が犠牲となったほか、約800棟近い住家被害、農林水産業や商工・観光業の被害、ライフラインや公共施設の被害等、大きな爪痕を残しました。また、奄美群島では毎年台風が接近し、本市でも土砂崩れや家屋の倒壊など多くの被害を受けております。

このようにいつどこで発生するか分からない災害に対し、日頃からの備えと災害時には、早めの避難や地域で協力して助け合い、命を守る行動をとることが何よりも重要であります。

今回作成いたしました「奄美市総合防災ハザードマップ」は、災害警戒区域の表示のほか、避難のポイントや防災に関する知識など多くの防災情報を分かりやすく掲載しております。

また、インターネット上でも閲覧できるように「Web版ハザードマップ」も作成しました。

Web版では、災害警戒区域などの更新や英語表示にも対応しており、住民や外国人旅行者に関わらず、誰でも最新のハザードマップを、閲覧・印刷できるようになっております。

皆様に「奄美市総合防災ハザードマップ」を今後の地域防災活動等でご活用して頂き、災害による犠牲者のでることのないよう災害に強い、安心・安全な奄美市を築くための一助となることを切に願っております。



奄美市長 朝山 毅

索引

市民の皆様へ・索引・奥付			
防災対策	1	避難行動判定フロー	10
防災対策&チェック	2	災害時の避難のポイント	11
非常時持ち出し品の準備&チェック	3	災害情報の収集	12
風水害・台風	4	緊急時の連絡先	13
洪水・土砂災害	5	奄美市 わが家のマイ・タイムライン	14
地震	6	マップの見方・使い方、地図の凡例	15
津波	7	奄美市マップ全体図	16・17
自主防災組織	8	笠利地区マップ	18～35
避難情報	9	名瀬地区マップ	36～55
		住用地区マップ	56～65

発行：奄美市（問い合わせ：総務課危機管理室 0997-52-1111）

制作・著作：株式会社ゼンリン鹿児島営業所

作成：2021年3月

参画機関等：名瀬測候所・陸上自衛隊奄美警備隊・奄美警察署・奄美海上保安部・大島地区消防組合・鹿児島県・奄美市・地域防災リーダー・防災士（株式会社ゼンリン）

「この地図は、奄美市長の承認を得て、同市所管の測量成果を使用して、調製したものである。（奄建土第32号）」

「この地図の作成に当たっては、鹿児島県知事の承認を得て、5千分の1森林基本図を使用したものである。（承認番号 平21 林振第467号）」

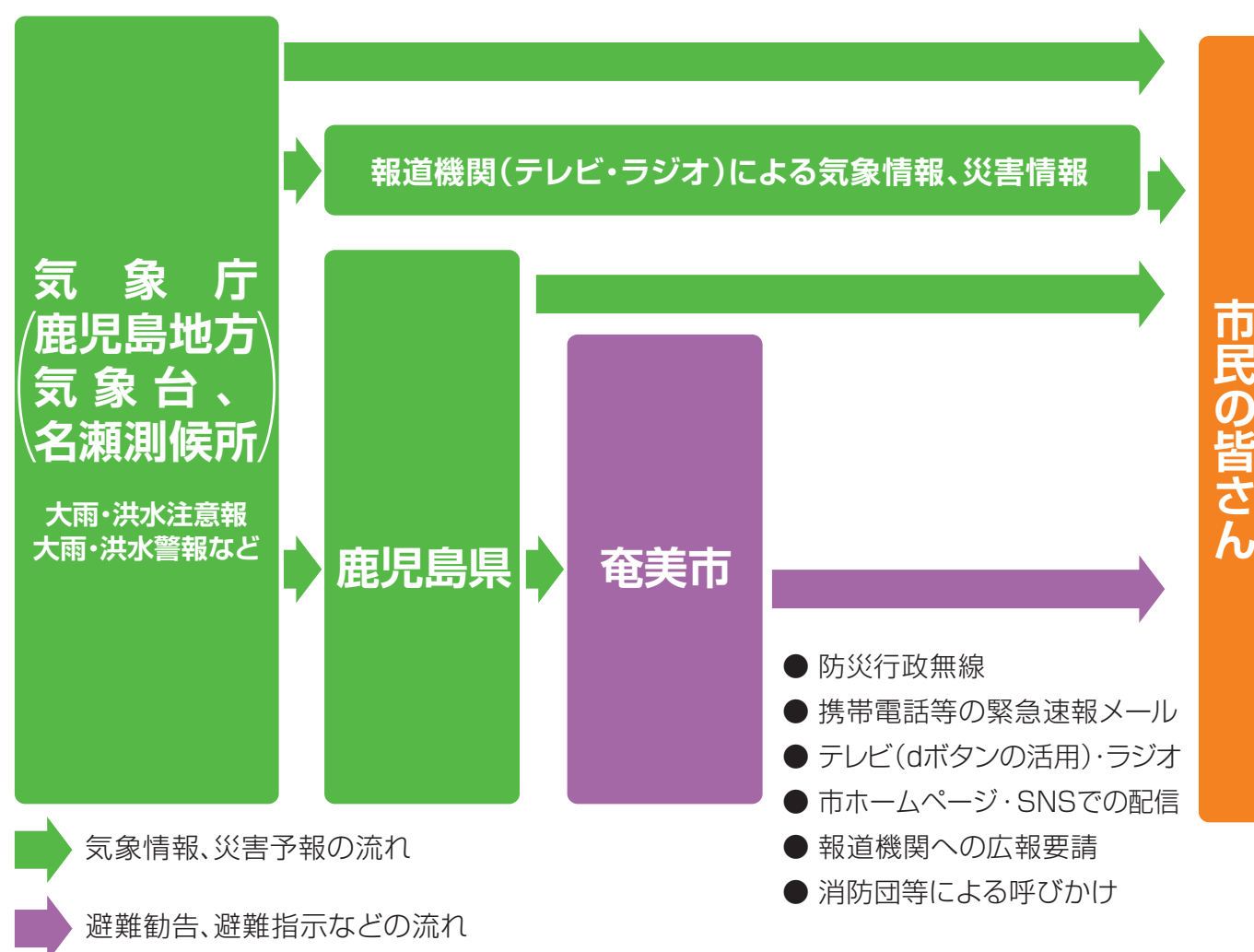
「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 2JHs 293—110号」「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 2JHs 294—051号」

「JIS Z 8210 避難所（建物）・津波避難場所・津波避難ビル・AED」

防災対策（市民の皆さんのご協力をお願いします）

気象情報・ 防災情報 などの流れ

災害に関する注意報や警報が発表されたら、市・テレビ・ラジオなどからの情報に注意してください。



災害に 備えて

●家族で防災会議をしてみましょう

家族で話し合うこと



災害は、いつどこで起こるか予測しがたいものです。災害が起こった時、被害を最小限に食い止めるためには日ごろからの備えが大切です。

万が一に備え、家族の行動、避難所や避難方法、連絡方法などを日ごろから家族でよく話し合っておきましょう。

また、災害に備えて家の中と外をチェックし、危険な場所は早めに改善するようにしましょう。

- 家の中ではどこが安全か。
- 救急医療薬品や消火器などを備えているか。
- 避難するところはどこか、どのような経路を通して避難するか。
- 避難するとき、誰が何を持ち出すのか、非常時持ち出し品はどこに置くか。
- 家族間の連絡方法と最終的に会う場所はどこにするか。
- 昼の場合と夜の場合の避難の方法はどのようにするか。
- 家族の役割分担はどうするか。
- 地域の防災活動に参加できるかどうか。

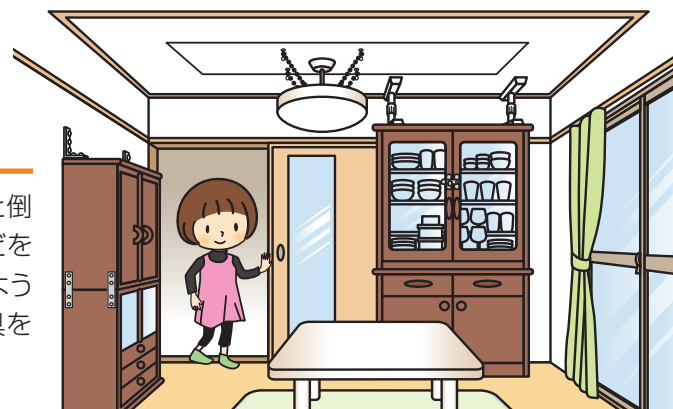
防災対策&チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

家の中の安全対策

☐ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



☐ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。

☐ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を倒れる方向へは置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



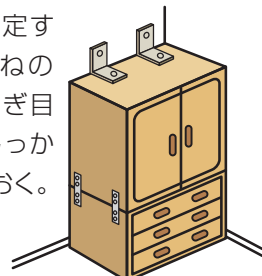
☐ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

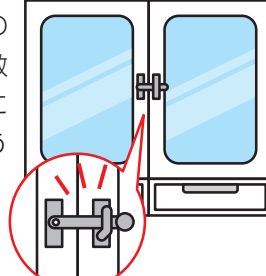
☐ タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



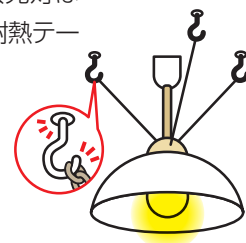
☐ 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



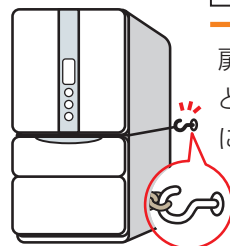
☐ 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



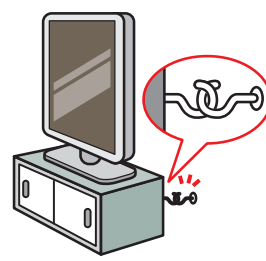
☐ 冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



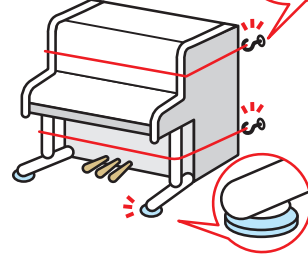
☐ テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。テレビとテレビ台を固定する。



☐ ピアノ

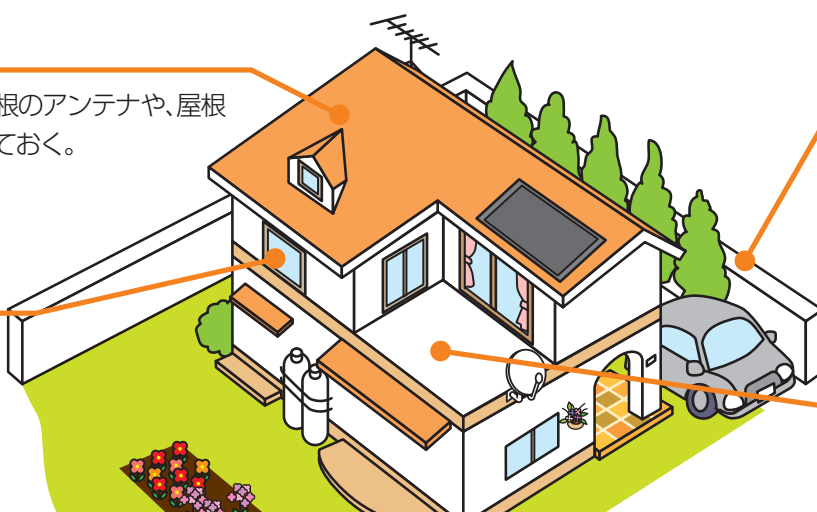
本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

☐ 屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。



☐ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

☐ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

☐ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

非常時持ち出し品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

非常時用品 備蓄品 (例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水



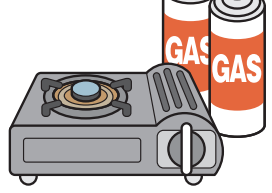
- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水した防災タンクなど

非常食品



- ☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

工具類



- ☐ スコップ
- ☐ バール
- ☐ ジャッキ
- ☐ ノコギリ
- ☐ ペンチ
- ☐ ロープ

その他

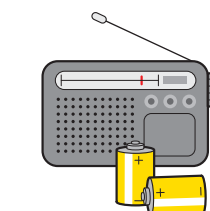


- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など
- ☐ 皿・コップ・はし

- ☐ ラップ・アルミホイル・キッチンペーパー・缶切りなど
- ☐ 簡易トイレ
- ☐ ろうそく・新聞紙・段ボール・布製ガムテープ・着火ライター・マッチ
- ☐ スリッパ・長靴
- ☐ ほうきとちりとり

非常時 持ち出し品 (例)

携帯ラジオ



- ☐ ラジオ
- ☐ 電池(多めに用意)

救急医療品



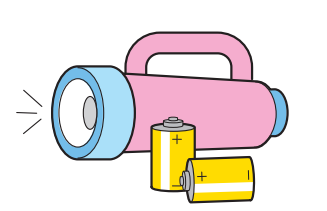
- ☐ 常備薬
- ☐ 傷薬
- ☐ 風邪薬
- ☐ ばんそうこう
- ☐ 持病薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 包帯
- ☐ 胃腸薬
- ☐ お薬手帳

貴重品



- ☐ 現金
- ☐ 印鑑
- ☐ 健康保険証
- ☐ カード類(コピー)
- ☐ 持病薬
- ☐ 預金通帳
- ☐ 免許証
- ☐ 権利証書
- ☐ 予備のキー

懐中電灯



- ☐ 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
- ☐ 電池(多めに用意)

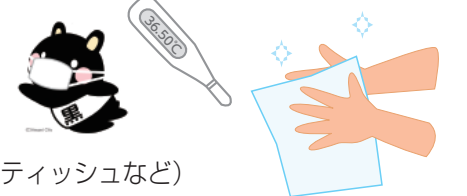
非常食品等



火を通さないで食べられるもの、食器など

- ☐ 非常用食品
- ☐ 缶切り
- ☐ 紙皿
- ☐ 水筒
- ☐ 缶詰
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 栓抜き
- ☐ 紙コップ
- ☐ アレルギー対応の非常食
- ☐ 軟らかい非常食

感染症対策品



- ☐ マスク
- ☐ 体温計
- ☐ 消毒用品(ウェットティッシュなど)

その他



- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ タオル
- ☐ ヘルメット
- ☐ ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ 防災マップ(本書)
- ☐ ティッシュペーパー・トイレットペーパー
- ☐ 日用品
- ☐ メガネ・予備のコンタクトレンズ
- ☐ 入れ歯・補聴器・大人用紙おむつ・補助具の予備
- ☐ 障がい者手帳
- ☐ ペット用品・ペットフードなど
- ☐ カップ
- ☐ ライター
- ☐ 携帯電話の充電器
- ☐ ビニールシート
- ☐ ペーパー歯みがき
- ☐ 防犯ブザー
- ☐ ナイフ
- ☐ 化粧品
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 新生児用品・ほ乳瓶・おしりふき・おもちゃ
- ☐ 寝具(毛布・タオルケット等)

※市が保有している備蓄品にも限りがあります。避難をされる際には、可能な限り必要なものを持参し、避難していただくようお願いいたします。

1週間を想定した工夫と備え

ローリングストック法で備蓄した非常食を活用

ローリングストック法

定期的(1ヶ月に1、2度)に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法です。食べながら蓄えるため、消費期限が短いレトルト食品等も非常食として扱えます。

風水害・台風

大雨や台風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

大雨注意報・警報・特別警報の発表基準

大雨注意報

大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。

大雨警報

大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。

大雨特別警報

台風や前線等により大雨となり、大雨警報の発表基準をはるかに超える大雨が予測され、重大な災害が発生するおそれが著しく高まっている場合。

まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応

特別警報は大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。

非常事態

特別警報が発表されたら

- ・尋常ではない大雨が予測されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

☐避難勧告等に従い、ただちに避難所に避難! 外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所へ移動
「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10 mm以上～20 mm未満	20 mm以上～30 mm未満	30 mm以上～50 mm未満	50 mm以上～80 mm未満	80 mm以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土砂流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～
風に向かって歩きにくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には、毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらしています。台風の接近が予測される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

(平均風速:m/秒)

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500 km以上～800 km未満	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800 km以上	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

集中豪雨

集中豪雨は、同じような場所で数時間にわたり数百ミリの雨量をもたらす雨です。発生の予測は難しく、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆非常時持ち出し品を準備しておく。
- ◆危険な地域では、いつでも避難できるよう準備する。
- ◆停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆浸水に備え、家財道具は高い場所へ移動する。

記録的短時間大雨情報

県内で数年に一度しか発生しないような猛烈な短時間の大雨を観測又は解析したときに、府県気象情報の一種として発表されます。(発表基準:鹿児島県は120mm/1時間雨量)

洪水・土砂災害

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

洪水

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して発生する「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれておきる。氾濫が発生すると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。

内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる。過去に発生した洪水によって浸水した区域を確認しておきましょう。

土砂災害

土砂災害警戒情報とは

「土砂災害警戒情報」は、大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難勧告※の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表。※国全体の防災の基本方針を示す防災基本計画では「土砂災害警戒情報が発表された場合にただちに避難勧告(警戒レベル4)等を発令すること」が基本。

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、ただちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。

土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

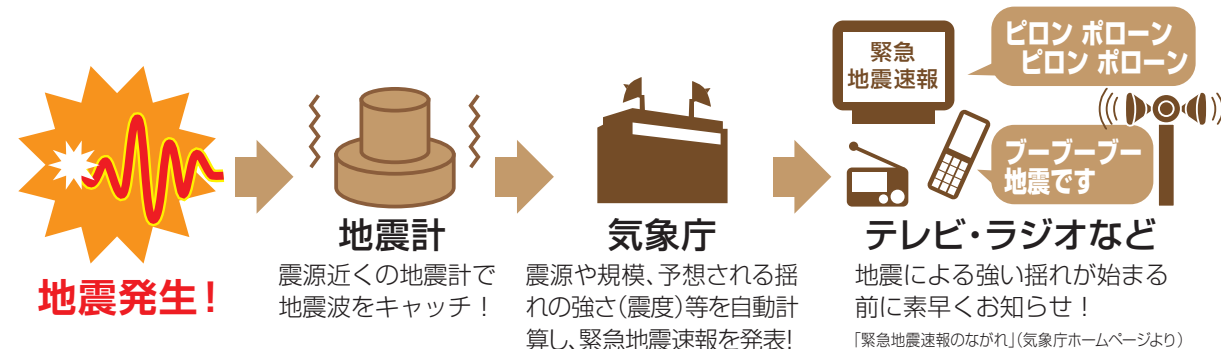
地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

4

5

緊急地震速報のながれ



《緊急地震速報》

地震波が2点以上の地震観測点で観測され、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上が予想される地域に発表します。

地震発生

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

最初の大きな揺れは約1～3分間

◆頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する。◆あわてて外へ飛び出さない。◆無理に火を消そうとしない。

揺れがおさまったら

◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火。◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。
◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく。
◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等要注意。

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

◆避難行動要支援者の安全確保 隣近所で助け合う。
◆行方不明者はいないか。◆ケガ人はいないか。

出火防止 初期消火

◆初期消火 消火器を使う パケツリレー 風呂の水はため置きをしておく。
◆漏電・ガス漏れに注意。◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める。◆余震に注意。

ラジオなどで正しい情報を得る

◆大声で知らせる。◆救出・救護を。◆防災機関、自主防災組織の情報を確認。
◆デマにまどわされないように。◆避難時に車は極力使用しない。◆電話は緊急連絡を優先する。

協力して消火活動、救出・救護活動

◆水、食料は蓄えているものでまかなう。 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく。
◆災害・被害情報の収集。◆無理はやめよう。◆助け合いの心が大切。◆壊れた家に入らない。

屋内にいた場合

家の中

◆小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保しましょう。
◆火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れず)。
◆乳幼児や病人、高齢者など避難行動要支援者の安全を確保する。
◆裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

◆カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
◆柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
◆あわてずに冷静な行動をとる。

集合住宅

◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。
避難にエレベーターは絶対に使わない。
炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
◆近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。
車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

バス・電車などの車内

◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。
◆途中で止まっても、非常口を開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。

海岸付近

◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。
津波の注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

津波から命を守るためには、「強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら」、「揺れが無くても津波警報を見聞きしたら」・・・より高い場所へすぐに避難!!

津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。
その後「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

津波警報・注意報の分類ととるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安全と思わず、安全を確保しながら、より高い場所を目指して避難しましょう！	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

避難時の心得

高い場所へ速やかに避難する

より高い場所へ、より海から遠い場所へ速やかに避難しましょう。

なるべく徒歩で避難する

車では渋滞や危険を招く可能性があるため、なるべく徒歩で避難しましょう。

正しい情報を入手する

防災行政無線やテレビ、ラジオなどから正しい情報を入手しましょう。

河川や海岸には近づかない

地震の発生や、津波の警報・注意報が発表された場合、海岸や河川は危険ですので、釣りや海水浴を行っている方は、速やかに海岸から離れ、高い場所へ避難しましょう。

避難指示に従う

避難指示が発令されたらただちに指示に従い、安全で高い場所に速やかに避難しましょう。

水害リスクのあるエリアにおける推奨建築物について

本市が作成している立地適正化計画では、都市計画区域内における災害リスクのあるエリアを減災促進区域と位置づけ、より災害に強い住居の建築を推奨しています。

本ハザードマップで浸水深2m以上の水害リスクが想定されるエリアでの住居の建築にあたっては、以下の取り組みを推奨しておりますので、建築の際に参考とされることをお勧めします。

- 倒壊可能性の高い木造建築以外の堅牢な建築物を推奨します。
- 垂直避難が可能な床面高さ以上の構造物を推奨します。
- 1階部分は倒壊しにくいピロティ型建築とすることを推奨します。
- 居室は浸水想定深より高い場所に配置し、すべての居室が浸水想定深以下にならないよう推奨します。



地域の
防災力

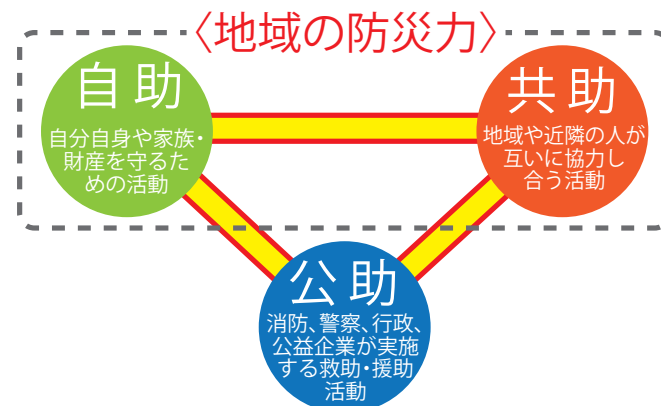
災害に強い地域をつくりませんか？

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。

ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」の活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取り組みを始めてみませんか？

（地域の防“く”力）



1. 自主防災組織とは？

- 災害発生時にはもちろん、日ごろから地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
 - 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食・給水などの活動を行います。
- 



2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。
- このような時、地域の皆さんが一緒になって協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。
- より効率よく、さまざまな活動をするために事前の準備(体制づくり)が重要です。

○各班の平常時(日ごろ)と緊急時(災害発生時)の活動内容は概ね次のような役割になります。

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	○住民に対しての連絡体制、手段の検討 ○情報収集・伝達訓練の実施 ○防災意識の啓発、高揚に関する広報 ○公的防災機関との連携確保	○初期消火訓練の実施 ○消火用水の確保、確認 ○出火防止の啓発	○事前に避難路、避難場所を把握 ○避難誘導訓練の実施 ○避難路の安全点検 ※<u>危険箇所(がけ、ブロック塀)などの確認等</u> ○避難行動要支援者の把握	○応急手当、衛生知識の普及 ○救命講習への参加 ○応急医薬品、救助資機材の確保、点検 ○技能、ノウハウを持った住民の把握	○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発 ○炊き出し訓練の実施 ○炊き出し用資機材の確保、点検
緊急時	○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告 ○混乱回避、出火防止等の広報	○初期消火活動 ※<u>消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本です</u> <u>ので無理はしないこと!!</u> ○情報班と連携しての出火防止等の広報	○情報班と連携しての避難の呼びかけ ○安全な経路を選択しての避難誘導 ○避難行動要支援者の避難支援 ○避難地での安否確認 ○安否確認による救出救護班への情報伝達	○避難誘導班と連携しての速やかな救出 ※<u>救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意してください。</u> ○負傷者の搬送、応急手当の救護 ○避難所・救護所での救護活動への協力	○食料や水、救援物資等の受入、配布 ○必要に応じて炊き出し

避難情報

市では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」を発令し、避難を促します。避難勧告などを発令するときは、さまざまな状況を総合的に判断して発令します。

大雨のとき

大雨のときの避難行動

避難は災害から命を守るための行動です。大雨による災害から身を守る避難行動は、従来、避難勧告等の発令時に行う避難所への避難が一般的でしたが、今後は次のすべての行動を避難行動とします。

指定避難所 への移動

警戒区域等内の自宅などから
移動し、安全な場所への避難
(公園、親戚や友人の家等)

近隣の強固で
高い建物等へ
の移動

建物内の安全な場所での待避
(家屋内の垂直避難)

やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策には斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。

屋外が安全で移動できる状態のとき

屋外が危険な状態などのとき

※特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、皆さんが早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、ただちに危険な区域から離れる。自主避難をすることが命を守ることになります。

地震のとき

大きな地震に伴って、多くの家屋が崩壊し、その後の余震により家屋が倒壊のおそれがあるとき、又は火災が発生して大規模な延焼拡大のおそれがあるとき。
※ただちに避難所を開設するよう努めますが、時間がかかる場合があります。

火災のとき

大規模に延焼が拡大する
おそれがあるとき。



その他

災害が発生するおそれがあるとき。

避難の準備

けいかい	じょうきよう	こうどう うなが じょうほう	じゅうみん	けいかい
警戒レベル	状況	行動を促す情報	住民がとるべき行動	警戒レベル相当情報
5	さいがいはいっせい また ゼンぱく 災害発生 又は切迫	きんきゆう あん ぜん かく ほ 緊急安全確保	いのち きけん ただ あんぜんかくほ 命の危険 直ちに安全確保！	・大雨特別警報 ・危険度分布「災害切迫」（黒） ・氾濫発生情報
<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<警戒レベル4までに必ず避難>>>>>>>>>>>>>>>>>>				
4	さいがい 災害の おそれ高い	ひ なん し じ 避難指示	きけん ばしょ 危険な場所から 全員避難	・土砂災害警戒情報 ・危険度分布「危険」（紫） ・氾濫危険情報 ・高潮特別警報 ・高潮警報
3	さいがい 災害の おそれあり	こう れい しゃ どう ひ なん 高齢者等避難	きけん ばしょ こうれいしゃとう ひ なん 危険な場所から 高齢者等は避難	・大雨警報（土砂災害） ・洪水警報 ・危険度分布「警戒」（赤） ・氾濫警戒情報 ・高潮注意情報
2	せしやうじやうきようあつか 気象状況悪化	おおあめ こうずい たかしおちゆういほう 大雨・洪水・高潮注意報	みづか ひなんこうどう かくにん 自らの避難行動を確認	・大雨注意報 ・洪水注意報 ・高潮注意報 ・危険度分布「注意」（黄） ・氾濫注意情報
1	こんご せしやうじやうきようあつか 今後の気象状況 悪化のおそれ	そうきちゆうい じょうほう 早期注意情報	さいがい こころがま 災害への心構えを高める	・早期注意情報（警報級の可能性）

避難行動判定フロー

○避難所に避難することだけが避難ではありません

「避難」とは、「難」を「避」けることであり、自宅での安全確保が可能な人は、リスク（避難途中での被災、感染など）を負ってまで避難所に行く必要はありません。自宅での安全確保が可能な場合には、自宅での避難の検討や、自宅が危険と考えられる場合でも、近くの安全な親戚や知人宅などに避難することも避難方法のひとつです。

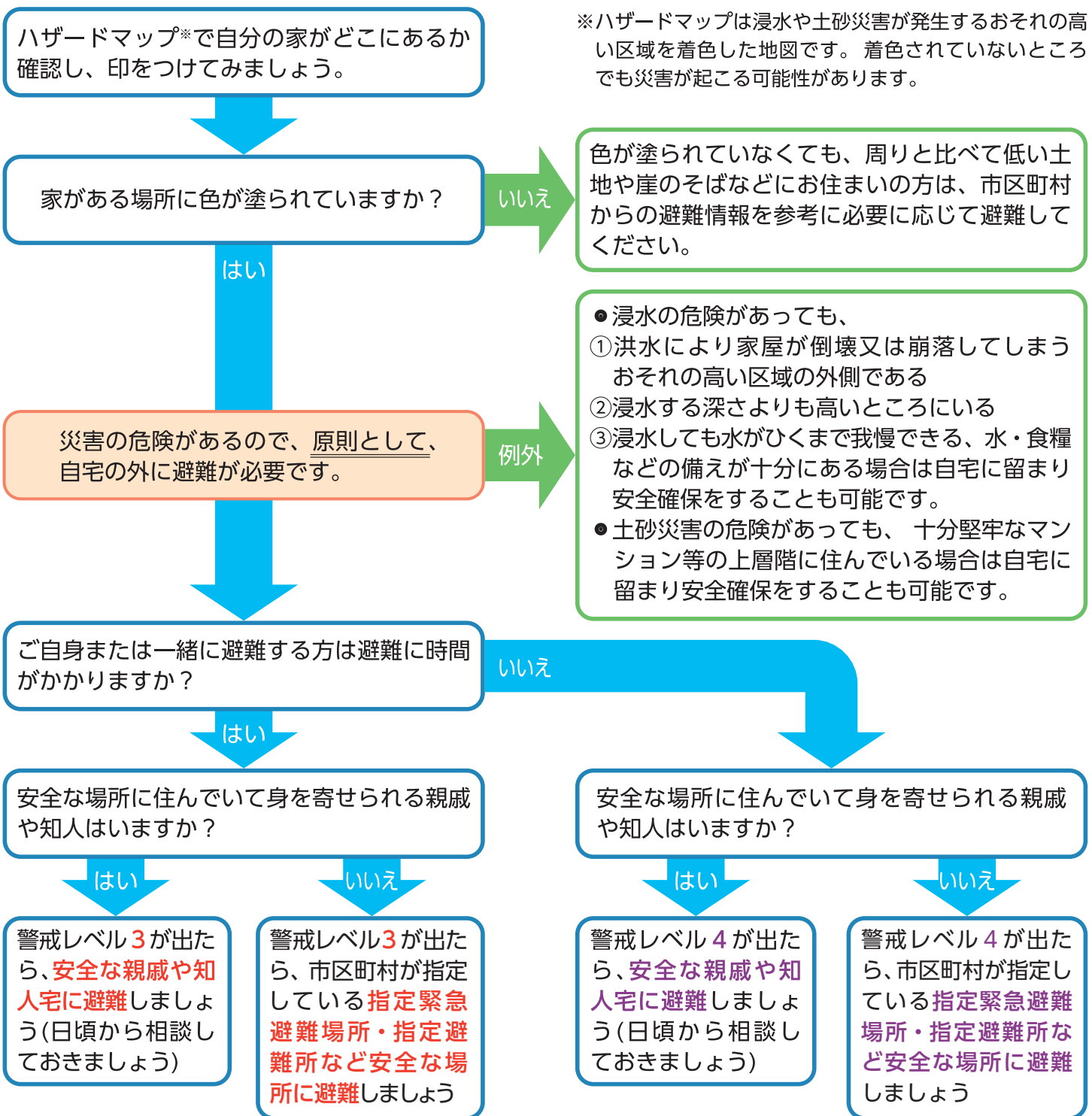
内閣府からも、避難行動に関する判定フローが示されていますので、参考にしてください。

平時に
確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を
確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ 必ず取組みましょう



※避難の際は、自宅の火の元・戸締りの確認をしましょう。

災害時の避難のポイント

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。その際には、子どもや高齢者などの避難行動要支援者の保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

避難に対する基本的な考え方

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。

命を守る最低限の行動とは

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動 ①水平避難 だけでなく、**命を守る最低限の行動** ②垂直避難 が必要な場合もあります。



例えば

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
- 流れがあり、ひざ上まで浸水している（50センチ以上）
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い
- 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある
- 津波が迫っていて、安全な高台に避難できない

②垂直避難 上記の場合、屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上（土砂災害の場合は斜面と反対側の部屋）へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。



感染症対策

家でもお店でも職場でも、「新しい生活様式」を心がけましょう。



続く発熱・強いだるさなどの体調のご相談は名瀬保健所まで（52-5411）

- ・ 会話は真正面を避けたり、近距離では小声で話すなど、距離に応じて工夫しましょう。
- ・ こまめな手洗い・うがいを行い、会話をするときなどはマスクを着用しましょう（熱中症にご注意ください）。
- ・ 体調が悪いときは無理をせず、自宅で療養しましょう。
- ・ 高齢者や持病のある人と会う際には、体調管理を厳重にしましょう。

災害情報の収集

災害等緊急情報入手や災害への備えとして

▼インターネット

奄美市

ホームページ



Twitter



Yahoo! 防災速報

ios版



Android版



奄美市ホームページ：https://www.city.amami.lg.jp

奄美市Twitter：https://mobile.twitter.com/Amami_city

豪雨情報など様々な災害情報をプッシュ通知でお知らせします。

Yahoo! 防災速報：https://emg.yahoo.co.jp

●防災行政無線補完ツールのご紹介

▼あまみエフエム ラジオ放送

緊急時の防災行政無線の放送が、ラジオからリアルタイムで流れます。放送が聞き取りづらいときにぜひご活用ください。

▼防災無線の内容を電話で再確認

放送が聞きとれなかった場合に、電話で再度聞くことができます。

☎0997-69-3535 ※24時間以内(定時放送・その他一部放送を除く)

※かけ間違いにご注意ください。つながらない場合は、しばらくしておかけ直してください。

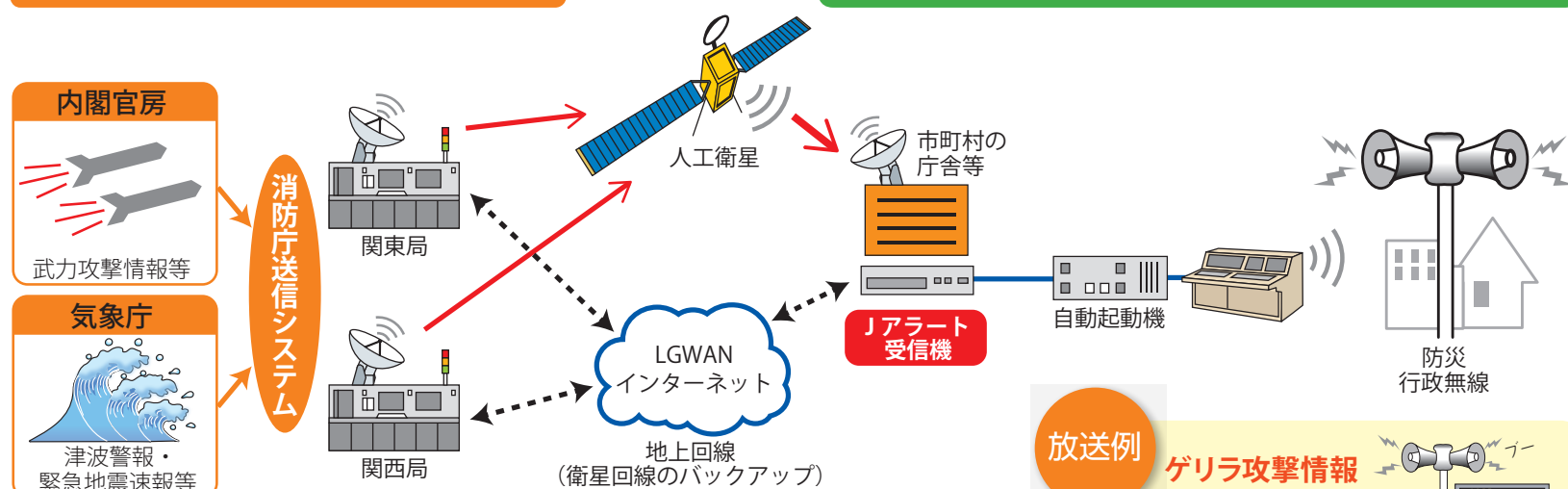
携帯電話・スマートフォンは
早めに充電しておくのだ!



さまざまな情報伝達機器で瞬時に緊急情報を伝える Jアラート

国に設置

地方公共団体に設置



放送例

ゲリラ攻撃情報

⚡️警報音：ブーッ

ゲリラ攻撃情報。ゲリラ攻撃情報。当地域にゲリラ攻撃の可能性がります。屋内に避難し、テレビ・ラジオをつけてください。

大津波警報

⚡️警報音：ウーッ ウーッ ウーッ

大津波警報が発表されました。海岸付近の方は高台に避難して下さい。

緊急地震速報

⚡️警報音：ピロン ボローン

緊急地震速報。大地震です。大地震です。

Jアラートとは

弾道ミサイル情報、大津波警報、緊急地震速報等の緊急情報を、人工衛星を用いて国(内閣官房・気象庁から消防庁を経由)から送信し、市区町村の防災行政無線や携帯メール、コミュニティFM等を自動起動させるもので、国から住民まで緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。

災害での活用事例

●東日本大震災で大津波警報をJアラートで受信し、防災行政無線から自動放送されたことで、スムーズに避難誘導が行われ、住民の命が救われた事例が見られた。

●平成24年12月、北朝鮮による「人工衛星」と称するミサイル発射情報と通過情報を、Jアラートを通じて瞬時に沖縄県内の住民に伝達した。

緊急時の連絡先

緊急時の 連絡先

消防・救急は
119番

警察は
110番

海の「もしも」は
118番

※市外局番 (0997)

名称	電話番号	名称	電話番号
奄美市名瀬総合支所	52-1111	大島地区消防組合	52-0100
奄美市住用総合支所	69-2111	奄美警察署	53-0110
奄美市笠利総合支所	63-1111	奄美海上保安部	52-5811
奄美配電事業所(停電)	0120-986-808		

日常の 心得

災害は、いつ発生するかわかりません。日ごろからの備えが大切です。日ごろから気象情報について、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどを通じて把握するよう努めましょう。

災害用伝言ダイヤル とは?

災害用伝言ダイヤルの使い方

NTTでは、災害発生時に被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

伝言の録音	171-1-0000(00-0000) (被災地の方の電話番号)	伝言保存期間	録音してから 48 時間
伝言の再生	171-2-0000(00-0000) (被災地の方の電話番号)	伝言蓄積数	1電話番号あたり10伝言まで
伝言内容(時間)	1 伝言あたり 30 秒以内	利用可能電話	一般電話(プッシュ回線、ダイヤル回線)、 公衆電話、携帯電話(一部除く)等

連絡方法 の確認

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

一般社団法人電気通信事業者協会 《災害時の電話の利用方法》	https://www.tca.or.jp/information/disaster.html
NTT西日本 《災害用伝言ダイヤル171》	https://www.ntt-west.co.jp/dengon/
NTTドコモ 《災害用伝言板サービス》	https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board/index.html
au 《災害用伝言板サービス》	https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/
SoftBank 《災害用伝言板サービス》	https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/

体験サービス期間

(時間は会社によって異なります。)

○毎月1日、15日(0:00~24:00)
○正月三が日(1月1日 12:00~1月3日 24:00)
○国の「防災週間」(8月30日~9月5日)及び「防災とボランティア週間」(1月15日~1月21日)

台風や大雨などは事前に進路や規模が予測できることから、接近時の計画をたてておくことで適切な避難行動に繋げることが出来ます。一人ひとりの避難行動計画をたてましょう。

平常時

大雨のおそれ

避難開始時期

災害発生

気象・避難情報

警戒レベル1
大雨発生の可能性

警戒レベル2
大雨・洪水注意報

大雨・洪水警報等
災害発生の恐れ

警戒レベル3
避難準備・高齢者等避難開始

より激しい雨
災害の恐れの高まり

警戒レベル4
避難勧告

警戒レベル4
避難指示（緊急）

大雨特別警報

災害発生
警戒レベル5
災害発生情報

避難準備・確認

■ハザードマップの確認 警戒レベル1
奄美市のハザードマップやWeb版ハザードマップで、お住いの地域の避難所や危険箇所を除いた安全なルートを確認しましょう。
自宅周辺の浸水深： m～ m未満
自宅の土砂災害判定：

■避難の準備段階 警戒レベル2
避難する場所への確認や簡易チェックリストを参考にいつでも避難できる体制を整えましょう。
避難先①：
避難先②：
避難先③：
避難方法：
避難に要する時間： 分
■避難開始 警戒レベル2
□ご高齢の方・妊娠中の方や小さなお子様連れの方など避難に時間を要する場合
□自宅が洪水浸水想定区域または土砂災害警戒区域等のエリア内にある
★市町村のHPの確認や防災無線を確認するなど、災害情報の収集や避難情報の発令など情報確認をこまめにチェックしましょう。
避難所に避難する際には、
運営へのご協力をお願いします。

避難対象区域の方は、この点線までに全員避難

●避難が完了していない場合は直ちに避難開始
●命を最優先の行動を！屋外が危険と判断された方は、屋内のほうが安全な場所になります。常に冷静な判断でご対応下さい。

家族のタイムライン
(あなたと家族の行動は？)

記入例) ・家族内で予め備蓄品を購入
・非常持ち出し品のチェック
・家族全員の集合場所を決め、安全な避難ルートを策定

(あなたと家族の行動は？)

記入例) ・災害情報を把握し避難を行うかの判断
・風水害に備え家の施錠や窓に養生テープを張る
・自家用車等の対策

(あなたと家族の行動は？)

記入例) ・避難を開始
・安全なルートで避難場所へ移動

(あなたと家族の行動は？)

記入例) ・避難所内では持ってきた食料品で過ごす
・落ち着いたら親戚等に連絡する

●自分の状況を家族や親戚等に連絡しましょう。

マップの見方・使い方

- 本防災マップは、平時から見やすい場所に置き、常に確認できるようにしてください。
- マップ上に表示してある土砂災害警戒区域・特別警戒区域については、崖崩れ及び土石流等の発生する可能性のある場所を示しておりますので、お近く（特に、下流側の地域）については十分に注意してください。
- 避難所については、災害によって住居を失う等、被害を受けた人や受ける可能性のある人が一定の期間、避難生活をする施設です。よって災害から一時的に避難をする場合を想定して、避難所及び避難経路を各家庭または地区（自主防災組織）で決めておく必要があります。
- 開設する避難所については、災害状況により変更になる場合があります。
避難前には必ず奄美市へ電話でのお問い合わせや市HPなどのご確認をお願いいたします。
- 各家庭において、自宅から避難所への避難経路をペンで塗るなどして表示し、常に確認するようにしましょう。

地図の凡例

警戒区域	土石流		土石流が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域	特別警戒区域	土石流		土石流が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域
	急傾斜地の崩壊		急傾斜地の崩壊が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域		急傾斜地の崩壊		急傾斜地の崩壊が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域

津波浸水想定区域	20m以上	「津波浸水想定」は、最大クラスの津波(※)が悪条件下において発生した場合に、想定される浸水域と浸水深を表したものです。浸水域や浸水深は、局所的な地面の凸凹や建築物の影響、構造物の変状等により、浸水域外でも浸水が発生する場合があります。 ※最大クラスの津波：奄美市に甚大な被害をもたらす、奄美大島近海の「奄美群島太平洋沖(北部)(マグニチュード8.2)」を震源とする最大津波を想定 津波浸水想定作成年：平成26年9月 作成機関：鹿児島県土木部河川課
	10m以上20m未満	
	5m以上10m未満	
	3m以上5m未満	
	2m以上3m未満	
	1m以上2m未満	
	0.3m以上1.0m未満	
0.01m以上0.3m未満		

過去の浸水実績区域		平成22年10月の集中豪雨など、過去に発生した洪水によって浸水した区域
-----------	--	-------------------------------------

凡例		指定避難所	被災者や津波災害後の被災者を一定期間滞在させるための公共施設等	35	接続するmapのページ番号
		津波避難場所(指定緊急避難場所)	津波から緊急に逃れるための場所		
		津波避難ビル	津波から緊急に逃れるためのビル	39	接続する詳細図のページ番号
		AED	AED(自動体外式除細動器)を設置している施設		

	国道		大字界		支所		郵便局		銀行
	主要地方道・県道		河川・池		官公署		病院		競技場・スポーツ施設
	その他道路		信号機		警察署・交番・駐在所		神社		商業施設
	郡市界		市役所		消防署		寺院		ホテル・宿泊施設
					小・中・高校		教会		